

1 単元名 写真と文章で伝えよう 題材「アップとルーズで伝える」 光村図書4年下

2 目標

- 対比・まとめなど、段落相互の関係に気をつけることで内容を把握しやすくなること知り、読み方に生かすとともに伝えたいことと伝える方法について興味をもつ。(国語への関心・意欲・態度)
- 取材した事柄を写真を利用しながら分かりやすく書いて知らせる。(書く能力)
- それぞれの段落が全体でどのような役割を果たしているか考えながら読む。(読む能力)
- 写真と対応した部分注意して読み取り、アップとルーズのそれぞれの特徴をまとめる。(読む能力)

3 指導上の立場

- 児童の実態

削除しています。

○題材観

本単元の教材「アップとルーズで伝える」は、生活の中でもっともよく目にしているメディアのテレビの映像技法を中心に述べている。児童にも身近に感じられる内容であり、実際に確かめることも容易である。また、アップとルーズについての記述も対比的で分かりやすく、写真と対応させて述べられている。

段落構成は、「初め・中・終わり」となっているものの、「中」の部分がテレビについて書いてある段落で、新聞について述べてある段落は「終わり」に分類する方がよいのか、新聞について述べた部分も「中」に含んだ方がよいのかは判断しにくいところである。そのためこの新聞についての段落を取り上げることは、段落の役割を考えるとときの重要なポイントとなるので、この段落を話し合うことで筆者の意図をしっかりと読み取り、学習を深めていきたい。

○本単元で工夫する点や手立て

領域を有機的に結び付けた関連的な指導(読む・書く)

説明文教材に、表現活動(書く活動)を取り入れた、単元構想の工夫

- ・読みの視点をもって、ワークシートで整理しながら読むようにする。
各形式段落での要点を中心文(キーセンテンス)をもとに書き、文章構成図を作るときの参考にし、どうしてそのような構成図を考えたかの根拠を書くようにさせる。また、対比させて書いてある段落については、構造的に接続語や長所・短所を書き込めるようにして違いを明らかにできるようにしたい。
- ・仕事リーフレットを作ることで今回の学習を生かす場を設定する。
第3次に社会科の「安全な暮らしを守る」と関連させて、消防署の人の仕事取材し、今回学習した写真と組み合わせて文章にし、リーフレットにまとめる活動を取り入れる。そのときには特に、アップとルーズの写真をうまく使い分けて説明できるようにしていく。

学びを重ねていくことができるよう系統的な指導

児童に「学び方」「読み方」を意識させ、学んだことが使える力を育てる指導の工夫

- ・要点指導について
各段落の大切な文章から自分でまとめて要点を書けるようにする。その際、中心文(キーセンテンス)が一文の場合もあるが、今回の教材では、二文にわたる場合もある(アップやルーズの長所や短所)ので、写真と対応させながら柔軟に作れるように助言する。
- ・段落構成(段落の役割)について
対比で述べられている段落やそれを受けてまとめている段落などの役割を自分で考えられるようにする。また、新聞のことを述べた段落に着目して、その段落の役割を考えることにより、筆者が意図や説得力のある文章について考えられるようにする。

○授業改善の視点

「文章構成から筆者の意図を考え、分かりやすい説明の仕方について考える授業」

4 指導計画（全12時間）

- 第1次 学習の見通しをもつ。……………（2時間）
- 第2次 「アップとルーズで伝える」を詳しく読む。……………（4時間）
 - 第1時 問題提示の段落を読む。
 - 第2時 アップとルーズの長所と短所を読む。
 - 第3時 アップとルーズの使い分けを読む。
 - 第4時 段落のつながりを考える。（本時）
- 第3次 仕事リーフレットを作ろう……………（6時間）

5 評価

- 対比やまとめなどの段落相互の関係に気を付けることで文章の内容が分かりやすくなることに興味を持つ。（国語への関心・意欲・態度）
- 写真の使い方や文章を工夫しながら分かりやすく表現することができる。（書く能力）
- 要点をきちんとまとめ、段落相互の関係をつかみながら読むことができる。（読む能力）

6 本時案（第2次 第4時）

目 標	段落のつながりを考えるを通して、段落相互の関係を捉えるとともに筆者の分かりやすい文章にするための工夫に気づくことができる。	
学 習 活 動	指導・支援・評価に関する配慮事項など	
1 本時の学習を知る。	<ul style="list-style-type: none"> ○①～⑥段落までのつながりをワークシートで確認し、本時は残りの⑦⑧段落がどのようにつながっているかを考えることを知らせる。 ○⑧段落は最終段落であることを押さえ、その前の⑦段落が⑥段落とどのようにつながっているかに着目するように考えるポイントを明らかにする。 	
	⑦段落のつながりを考えよう。	
2 ⑦段落のつながりを考える。	<ul style="list-style-type: none"> ○ワークシートに前時までの読んだ要点をもとに、段落のつながりを接続語や内容から判断することを伝える。 ○⑦段落をなぜその位置にしたのか根拠がわかるようにワークシートに書き込むようにする。 ○一人で考えた後に、班の中で自分の構成図の根拠を明らかにしながら説明するように指示をする。 ○学級で考えるときは、構成図や根拠を板書し、他の児童が視覚的にとらえられるようにする。 ○正しい⑦段落の位置を決めるのではなく、なぜそう考えたのかを大切に学級全体を巻き込んだ話し合いになるようにする。 ○本時では①②と④⑤の対比を思い出させ⑥と⑦は同じようなものを並べて書いてあることに触れる。 ○⑦があるときとないときでの違いを考えることで、説得力を高めるための⑦の役割に気づけるようにする。また、ここでは新聞の写真などの具体的な例を挙げて説明していない理由についても考えてみたい。 	
(1)一人で考える。		
(2)班で考える。		
(3)学級で考える		
3 完成した文章構成図を記述し、今日分かったことを書く。	○段落のつながりを考えることで、筆者の意図や記述の工夫についてわかったことを書くことを確認する。特にそれらの工夫についての驚きが書かれているものがあれば学級で紹介したい。	

